

★漢方あれこれ★

◆ 枸 杞 ◆

空前のブームになりました。



太田 順康

枸杞＝ナス科の落葉低木 枸杞葉＝クコの茎、葉、枸杞子＝果実、地骨皮＝根の皮。として全部薬用として使用されます。

神農本草経の上品の部に「五臓の変調による病気、風寒暑湿などの外邪による病気、熱が体内に籠りむやみに咽喉の渇く病気や痛みが経絡などに沿って上下する痺を治すことができる。長く服用すると筋骨を強くし、身が軽くなり、老い無いよになる。(不老)」と記述されています。

クコの葉にはベタイン、ルチン、ビタミンCが沢山含まれ高血圧症に良いとされています。

クコの実には梅酒と同じ要領でホワイトリカーに砂糖と漬けて強壯薬酒として飲まれています。また肝臓に脂肪の貯まるのを防ぎ、ホルモンの分泌をよくするのでお年寄りには嬉しい薬です。

クコの根は、血圧降下、血糖降下、解熱、咳、痰切りに効果があるとされています。

北海道を除く日本の全土に分布し、日当たりの良い、少し湿った原野、海岸、道端、堤防などの低地に自生していますが、40年前に日本中で枸杞ブームが起こり、自生の枸杞はほとんど採り尽くしてしまったようです。徳島の方では畑で栽培していた枸杞を一晩で根こそぎ持っていかれたと云う話でした。

太田薬局でも中国産の葉だけのものを極上、国内産の茎も混じったものを並として販売していましたが。1日に250g入り50袋を詰めても足りないことがありました。並を詰めるときは棘があつて痛くて苦労しました。枸杞の苗も1日10本は売っていました。

特製の袋を印刷して高校生や中学生の妹弟まで動員して家内工業ばりの状態でした。

2年位でクコの葉が月に10個位売れる程度にブームは落ち着きました。随分儲かったようです。それから太田薬局は漢方薬屋として世間に知られるようになったようです。



曜日と時間： 毎週金曜日 10:30～

☆雨のときは、中止します。

☆お茶など飲み物を持参

< 6月の予定 >

3日(金) 10日(金) 24日(金)

緑が濃くなりました。

ちょうちょ、トンボ、ヘビたち、アリ・・・みな活発に動き回っています。松尾池のカモたちがいなくなって寂しいですが、カワセミや野鳥をカメラにと写真愛好家たちが参集、梅雨前の松尾池周辺は賑わっています。

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。岐阜県漢方研究会会長。岐阜薬科大学「漢方学」講師) 今月の漢方相談日は、下記のとおりです。

6日(月) 13日(月) 27日(月)

§ 6月の休診日

16日(木) 17日(金) 20日(月) 23日(木)

§ 特定健康診査が始まります。

実施日：6月8日(水)～10月31日(月)

対象者：1941(S16)年11月1日～1977(S52)年3月31日生 負担額：800円

持ち物：特定健診受診券、岐阜市国民健康保険証、負担額 (・後期高齢者のすこやか健診は、9月からです)

今では年に何個と云う状態です。特製の袋は経年変化で敗れやすくなり数年前に廃棄しました。

生命力の強い植物ですので、堤防などの茂みを探せば見つかるかもしれません。夏に葉腋に淡紫色のきれいな小さい花をつけます。探して見てください。

核家族の影響か祖父母から民間薬の伝承がされなくなって、どくだみ、ゲンノショウコ、ハブ茶、ハトムギなど良い民間薬を煎じて飲む習慣がなくなりつつあることは淋しいことです。

(つづく)